

緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針



令和4年(2022年)9月 秦野市環境共生課

目次

1 目的	(P. 1)
1 活用指針の目的 1
2 施設の概要	(P. 2-13)
1 緑水庵 2
2 蓑毛自然観察の森 12
3 現在の課題	(P. 14)
1 施設の安全性 14
2 駐車場の改修 14
3 展示館としての役割 14
4 施設の用途制限 14
5 管理団体の構成員の高齢化や活動内容の周知 14
6 蓑毛自然観察の森の整備 14
4 活用展開の指針	(P. 15)
1 地域住民が気軽に利用できる居場所や来訪者の休憩スペースとしての活用 15
2 自然に囲まれたコワーキングスペースなどの場として活用 15
3 展示資料の充実 15
4 緑水庵を拠点とした関連イベントとの連携や周辺施設等を活用したイベントの実施 15
5 活用展開の具体的方策	(P. 16-18)
1 施設の安全性の確保等の改修工事 16
2 周辺環境の整備 16
3 SNSを活用した情報発信 16
4 管理団体の活動を継続していくための体制づくり 16
6 今後の施設整備・改修等	(P. 19-20)
1 施設活用の具体的な検討 19
2 施設の耐震性能評価等 19
3 駐車場等の周辺施設の整備 19
4 施設の整備・改修 19

1 目的

1 活用指針の目的

蓑毛地区は、表丹沢の東側にあり、ヤビツ峠に通じる県道70号線（秦野清川線）沿いに位置し、付近には、丹沢大山国定公園が広がり、蓑毛大日堂や蓑毛不動堂などの国登録有形文化財（建造物）などがある。

緑水庵は、昭和5年（1930年）に葉たばこ栽培を営んでいた芦川氏の主屋として今泉地区に建築され、平成3年（1991年）に、現在の場所（蓑毛自然観察の森）の一角に移築された。

現在は、地元自治会を中心に組織された緑水庵管理運営委員会が管理しており、葉たばこ栽培を伝える学習施設や地域のイベント等の拠点として主に活用されている。

令和2年（2020年）4月には、葉たばこ栽培に関わる遺構として、また昭和初期の農家建築を知るうえで重要な建築物と認められ、国登録有形文化財（建造物）に登録されるとともに、「表丹沢魅力づくり構想（同年9月策定）」において、地域活動拠点施設※1として位置付けられた。

そのため、地域活動の活性化や地域住民と来訪者の交流の拠点として、賑わいを創出し、地域の持つ魅力を発信することが期待されている。

こうした背景のもと、本活用指針策定の目的は、築後約90年、移築後約30年（令和3年時点）を経過した緑水庵について、施設の老朽化や管理運営などにおける課題を把握し、今後の地域活動拠点としての活用の展開を図り、地域住民や来訪者で賑わう施設となるための活用の指針を策定するものである。

※1「地域活動拠点施設」

地域の人材や地場産品の活用により、地域活動を活性化させ、魅力を発信し、地域と来訪者の交流を創出することで、地域への愛着や誇りの形成につなげていくとともに、魅力的なスローライフを発信できる拠点。（表丹沢魅力づくり構想から抜粋）



2 施設の概要

1 緑水庵

(1) 歴史

緑水庵は、昭和5年（1930年）に、葉たばこ栽培を営んでいた芦川氏の主屋として、今泉地区に建築され、昭和42年（1967年）には改装が行われ、現在の姿となった。

当時の芦川氏は、葉たばこ栽培の他にも、麦や落花生などの畑作を生業にし、7月、8月頃には、収穫した葉たばこを「ドマ」や「ザシキ」で乾燥させていた。

建築当初、天井が張られていたのは「オク」と呼ばれる床の間のある部屋だけであり、「カッテ（台所）」の広さも現在とは異なり、一部は味噌部屋と呼ばれ、その裏には竈などが置いてあった。

その後、平成3年（1991年）に、主屋のみ葉たばこ栽培農家の当時の暮らしを伝える「展示館」として、蓑毛自然観察の森の隣接地に移築され、令和2年（2020年）には、葉たばこ栽培に関わる遺構として、また昭和初期の農家建築を知るうえで重要な建築物と認められ、国登録有形文化財（建造物）に登録された。

（緑水庵の歴史年表）

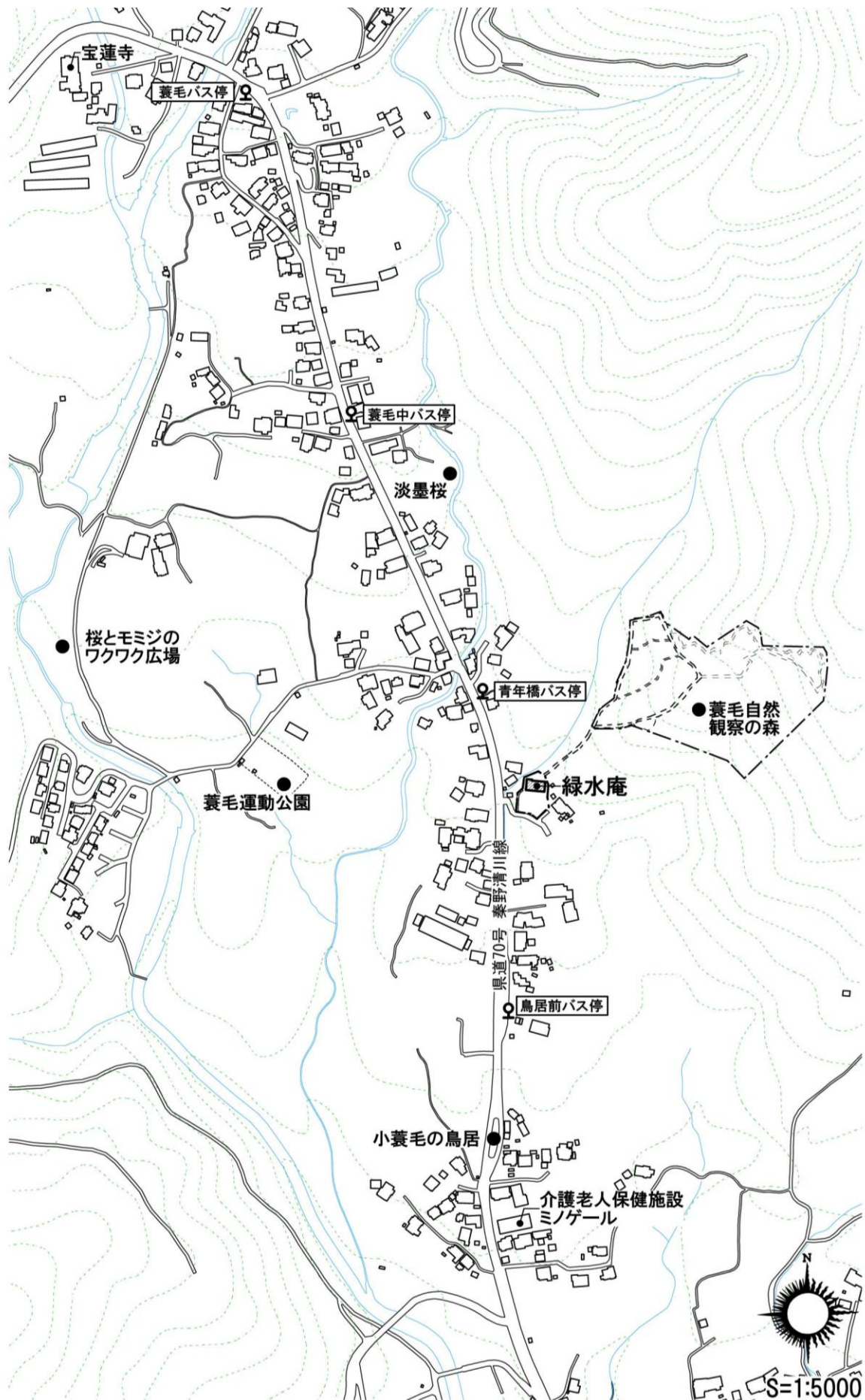
時代	年	出来事
昭和期	5年 (1930年)	芦川氏の主屋として、今泉地区に建築
	42年 (1967年)	現在の姿に改修
平成期	3年 (1991年)	主屋のみ「展示館」として、現在の場所に移築
令和期	2年 (2020年)	国登録有形文化財(建造物)に登録

(2) 施設概要

建築面積132.58㎡の桁行8間×梁間4間半を原型とする木造平屋建で、屋外には、水車小屋、駐車場、トイレが整備されている。

2 施設の概要

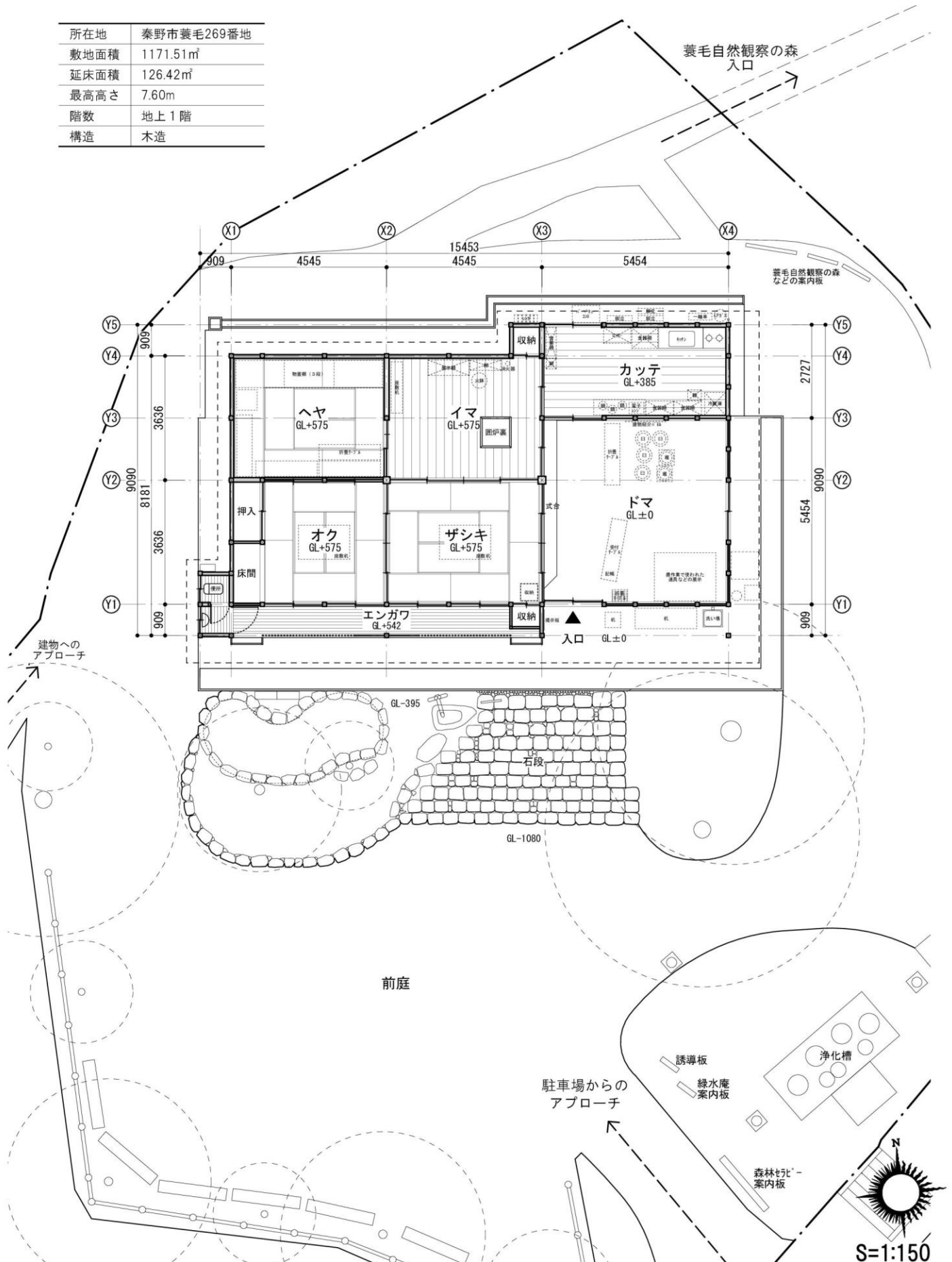
(緑水庵の周辺図)



2 施設の概要

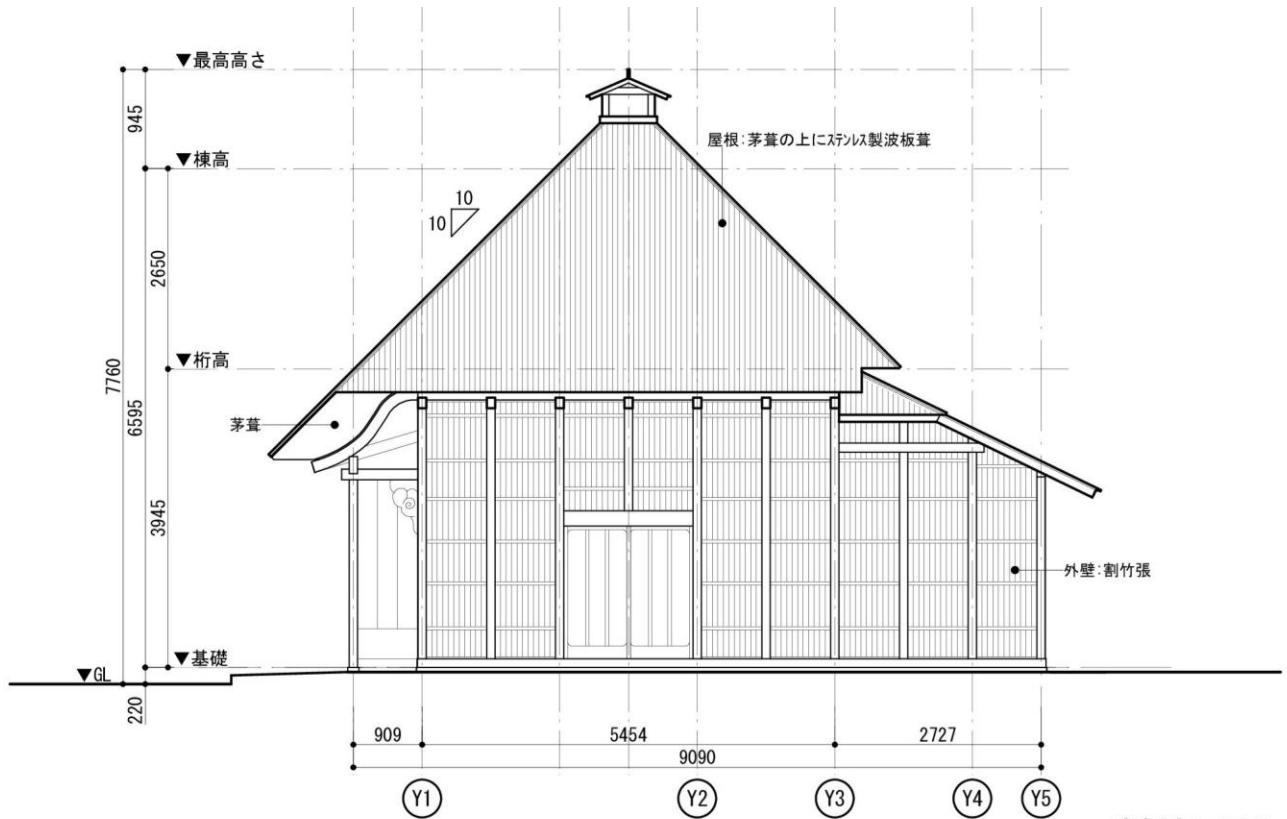
(緑水庵の概要図)

所在地	秦野市蓑毛269番地
敷地面積	1171.51㎡
延床面積	126.42㎡
最高高さ	7.60m
階数	地上1階
構造	木造

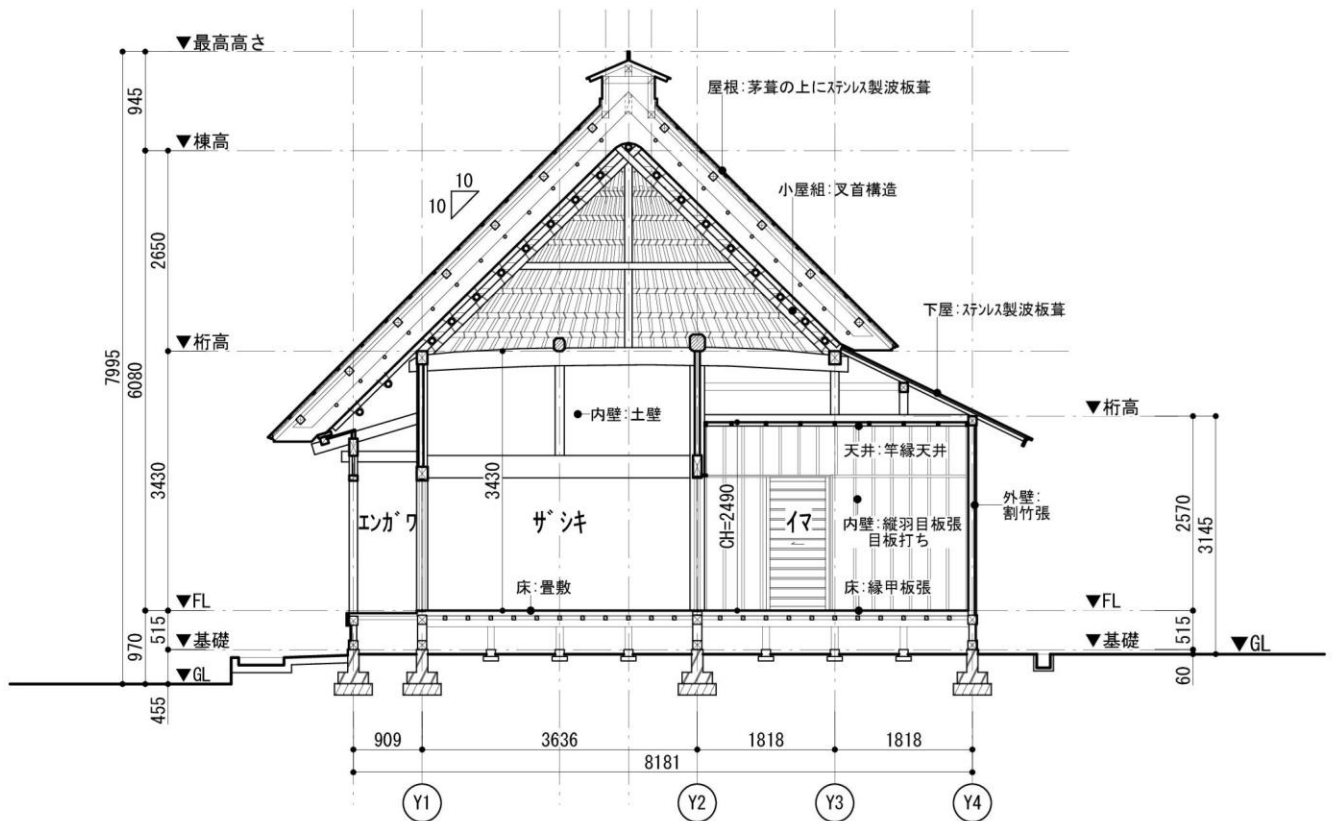


2 施設の概要

(緑水庵の概要図)



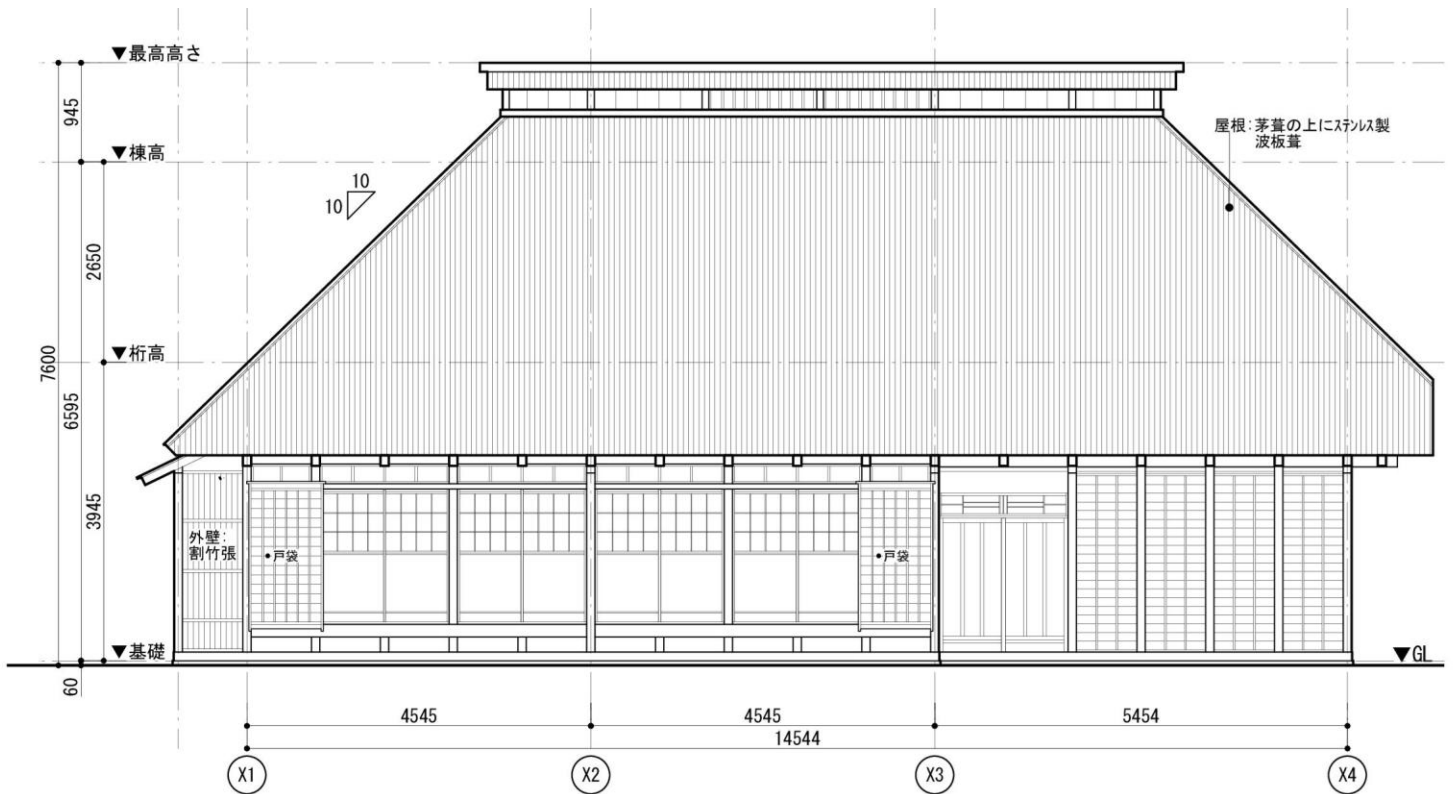
東側立面図 S=1:100



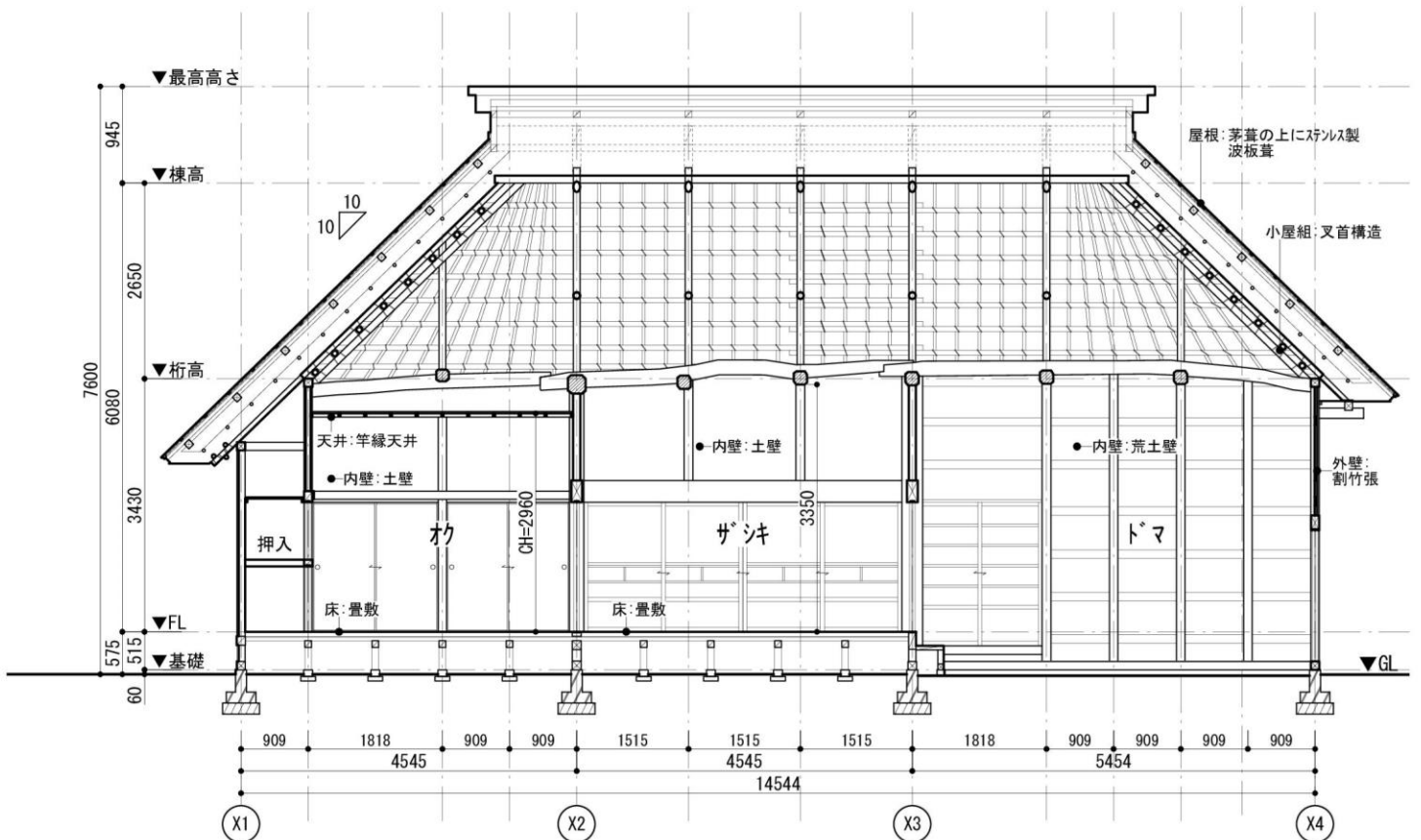
X2 通り断面図 S=1:100

2 施設の概要

(緑水庵の概要図)



南側立面図 S=1:100



Y2通り断面図 S=1:100

2 施設の概要

(緑水庵の概要図)



南側外観：前庭に面したエンガワでは、アロマの精油づくり（森林セラピーの活動の一部）などにも利用されている



小屋組：又首構造（合掌造り）で、その上にカヤを葺いている



ドマ：葉たばこ栽培や当時の農家の暮らしなどに関する道具や説明資料が展示されている



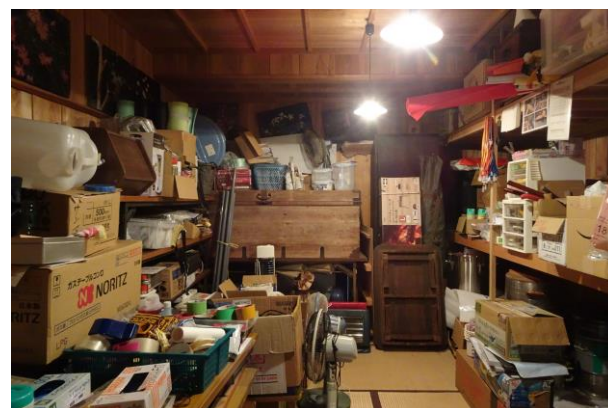
ザシキ：10畳の広さがあり、当時はドマやザシキで収穫した煙草を乾燥させていた



オク：床間や押入を含めて10畳の広さで、当時この部屋のみ天井が張られていた。現在自治会の集会などに利用されている



イマ：8畳の板張の床で、囲炉裏や家具など当時の生活の様子が再現されている。内壁は杉板が張られている



ヘヤ：10畳の広さで、現在はヘヤとオクの間壁を設け、物置に利用されている。内壁はイマ同様、杉板が張られている
緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針 8



カッテ：半分の広さが土間で、味噌部屋と呼ばれており、竈などはその裏に置いてあった。

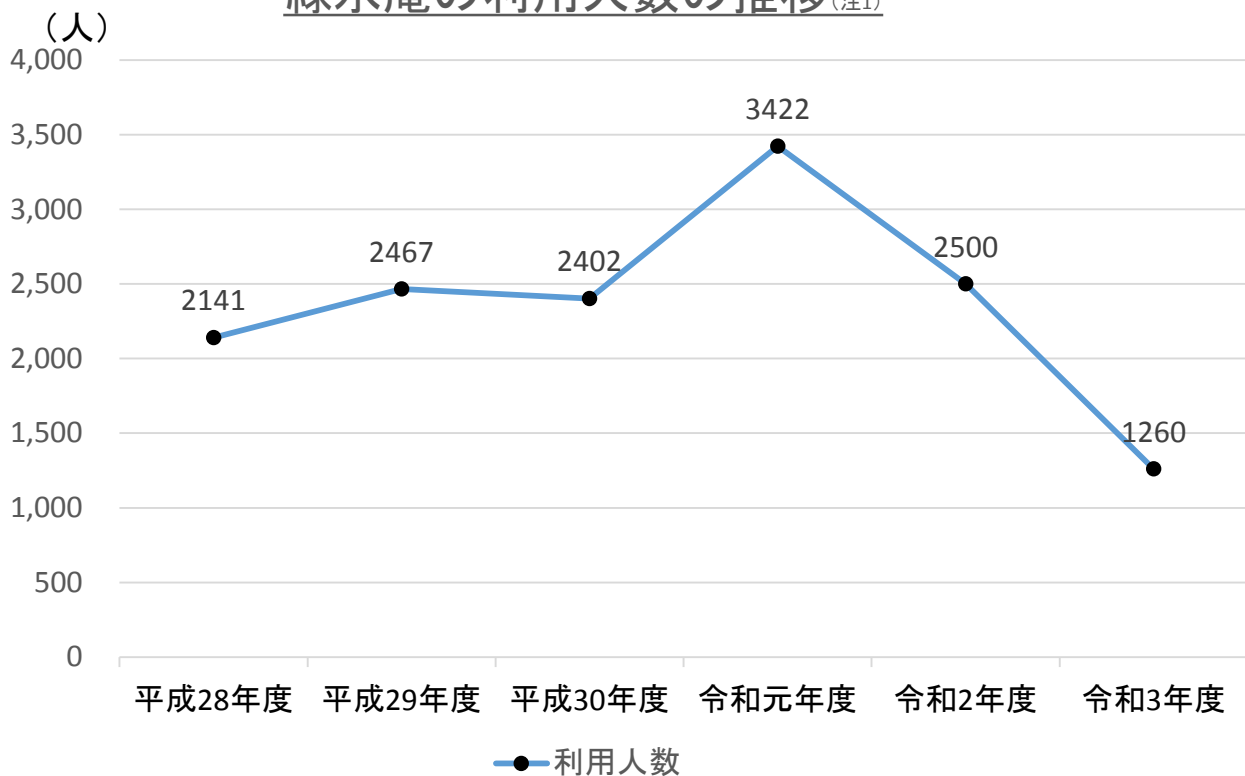
2 施設の概要

(3) 現在の主な活用方法

葉たばこ栽培を伝える学習施設や地域のイベント等の拠点として主に活用されている。今後、新東名高速道路の開通や森林セラピーロード※1の関連施設として、利用者が増えると予想される。

※1「森林セラピーロード」
癒しの効果が実証され、森林セラピー（効果が科学的に裏付けられた森林浴）に適した道として、認定された遊歩道。

緑水庵の利用人数の推移(注1)



(注1) 令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、利用人数が減少した。

2 施設の概要

(通年行事)

- ・ 蓑毛ふるさと自然村
月に1回程度、農作物の植付や収穫などのイベントを実施。
- ・ 森林セラピーイベント
森林でのハンモックやヨガ体験など、年4回程度実施。
- ・ 地元自治会の会議等の利用
総会や敬老会、納涼祭などを実施。

(4月頃)

- ・ 淡墨桜のライトアップ
見学者のために駐車場を開放。

(5月、6月頃)

- ・ 農業体験教室 (注2)
田植え体験や竹細工づくりなど、小学生の親子向けの体験イベント。

(9月頃)

- ・ お月見の会 (注2)
緑水庵の前庭に舞台を設置し和太鼓やダンス等の催し物や、駐車場に模擬店を出店。

(12月頃)

- ・ 紅葉ライトアップイベント
緑水庵の紅葉をライトアップし、期間中の日曜日に楽器演奏や模擬店を出店。 (注2)

(注2) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和2年度から令和3年度は中止。

2 施設の概要

(緑水庵の年間イベントスケジュール)

緑水庵を拠点とした年間の活動

緑水庵を拠点として行われている活動について、施設の運営に中心的に関わっている地域の方々や、施設を利用する活動団体の方々にヒアリングを行い、年間の活動状況をまとめた。
 蓑毛地域の季節の行事や集会の他、蓑毛ふるさと自然村、森林セラピーなどの体験活動、小田急電鉄と地域の団体の協力による親子向けの農業体験など、さまざまな活動が年間を通じて実施されている。

OGグループヒアリング参加者：
 蓑毛地区活性化対策委員会、緑水庵管理運営委員会、蓑毛自治会連合会、
 小田急電鉄株式会社、栗野市観光協会、栗野市生涯学習課、
 栗野市環境共生課、龍溪護国計画 より計9名（環境共生課および龍溪護国計画は除く）
OGグループヒアリング実施日、場所：
 2021年7月5日 緑水庵

主な運営団体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
蓑毛地区 活性化 対策委員会	蓑毛ふるさと自然村 <2019年度の活動実績> 4月上旬 ・開村式 ・じゃがいも植付 など 5月上旬 ・サトイモ植付 ・カゲノコ掘り など 6月上旬 ・田植え ・玉ねぎ収穫 など 7月上旬 ・じゃがいも収穫 ・落花生種まき など 8月上旬 ・かぼちゃ収穫 ・流しほうめい など 9月上旬 ・大根、人参種まき ・ハーベキュー など 10月上旬 ・稲刈り ・落花生収穫 など 11月上旬 ・収穫祭 ・さつまいも収穫 など 12月上旬 ・紅葉ライトアップ ・玉ねぎ植付 など 12月中旬 ・緑水庵すず払い ・どんど焼き ・どんど作り ・回子作り	森林セラピーてくてくウォーク(春) ・森林セラピーロード(蓑毛、春瀬湧水コース)のガイドツアー&アクティビティー ※緑水庵が集合、解散場所 ・ヨガやハンモック体験などの活動 ・緑水庵でアロマづくり など ・各季節1回程度実施 ・参加者は20～25人程度 (コロナ禍では、5～6人ずつ案内)	森林セラピーてくてくウォーク(夏) ・森林セラピーロード(蓑毛、春瀬湧水コース)のガイドツアー&アクティビティー ※緑水庵が集合、解散場所 ・各季節1回程度実施 ・参加者は20～25人程度 (コロナ禍では、5～6人ずつ案内)	森林セラピーてくてくウォーク(冬) ・森林セラピーロード(蓑毛、春瀬湧水コース)のガイドツアー&アクティビティー ※緑水庵が集合、解散場所 ・各季節1回程度実施 ・参加者は20～25人程度 (コロナ禍では、5～6人ずつ案内)	・参加者は年度ごとの会員制で、市内外から40人程度参加している							
	蓑毛地区 活性化 対策委員会 + 緑水庵管理 運営委員会 + 蓑毛自治会 連合会	3月末～4月上旬 蓑毛の桜並木ライトアップ ・開花時期の夜にライトアップ ・見学者のために緑水庵の駐車場を開放	6月上旬 敬老会 ・地域の高齢者向けの催し ・食事(弁当)の用意と、カラオケや踊りなどの出し物	7月上旬 蓑毛地区自治会納涼祭 ・カラオケ、踊り、ビンゴなどの催し ・模擬店の出店(駐車場)	9月中旬 お月見の会 ・中秋の名月に合わせて開催 ・楽器の演奏や踊りの披露(和太鼓、オカリナ、フラダンスなど) ・模擬店の出店	11月下旬～12月上旬 紅葉ライトアップ&イベント ・11月下旬～12月上旬にライトアップ ・ライトアップ期間中の日曜日にイベント(楽器演奏、模擬店の出店など)						
蓑毛自治会 連合会	4月上旬 蓑毛自治会連合総会 ・会議 ・懇親会	6月上旬 職業体験教室 ・小学生とその親に向けた体験イベント ・蓑毛里山里山保全地域を守る会や、蓑毛地区自治会との協力のもと実施 ・緑水庵を拠点に、蓑毛運動公園近くの畑で田植え体験や、畑ない体験、竹細工づくり など ・参加者は、30組60名(親1人+小学生1人)	7月下旬 敬老会 ・地域の高齢者向けの催し ・食事(弁当)の用意と、カラオケや踊りなどの出し物									
小田急電鉄 株式会社 + 蓑毛地区活性化 対策委員会等	5月～6月頃 職業体験教室 ・小学生とその親に向けた体験イベント ・蓑毛里山里山保全地域を守る会や、蓑毛地区自治会との協力のもと実施 ・緑水庵を拠点に、蓑毛運動公園近くの畑で田植え体験や、畑ない体験、竹細工づくり など ・参加者は、30組60名(親1人+小学生1人)											

2 施設の概要

2 蓑毛自然観察の森

(1) 歴史

自然観察、環境教育の場として運営するために、秦野市が地権者から借受け、自然とふれあえる憩いの場として昭和60年（1985年）に設置された。

ヤマユリをはじめ、様々な花も楽しむことができ、平成6年（1994年）に「かながわ花の名所100選」に選ばれた。

平成19年度（2007年度）まで、秦野市が「はだのネイチャーウォッチングクラブ※1」に管理を委託。それ以降、里山ふれあいの森づくり事業※2の事業地となったため、里山団体が管理をすることとなったが、当会が解散となったため、平成29年度（2017年度）から、秦野市が直接管理している。

※1 「はだのネイチャーウォッチングクラブ」

自然保護の啓発・普及を目的とし、秦野市で自然教育活動を行っているボランティアグループ。

※2 「里山ふれあいの森づくり事業」

里地里山の保全及び水源かん養等森林の持つ公益的機能の回復を図るための事業。

(2) 施設の概要

広さは約2ヘクタールあり、「見晴らし台」や「高木の道」、「下草の道」、「復元の道」などのコースが設定されている。

・見晴らし台

秦野盆地、渋沢丘陵、相模湾等が一望でき、休憩用のベンチが設置されている。

・高木の道

約400mの外周コースで、四季折々の草花及び樹木の観察ができる。

・下草の道

日の当る場所で、草花の観察ができる。

・復元の道

自然観察の森から衰退、又は消滅した植物が観察できる。

・やまぼうしの道 (注1)

周囲に、やまぼうしが自生している。

・もみの道 (注1)

頂上付近に、もみの大木が見られる

・すずたけの道 (注1)

道の両側に、すずたけが自生している。

(注1) 斜面が急であり整備が必要であるため、開放していない。

(3) 現在の主な活用方法

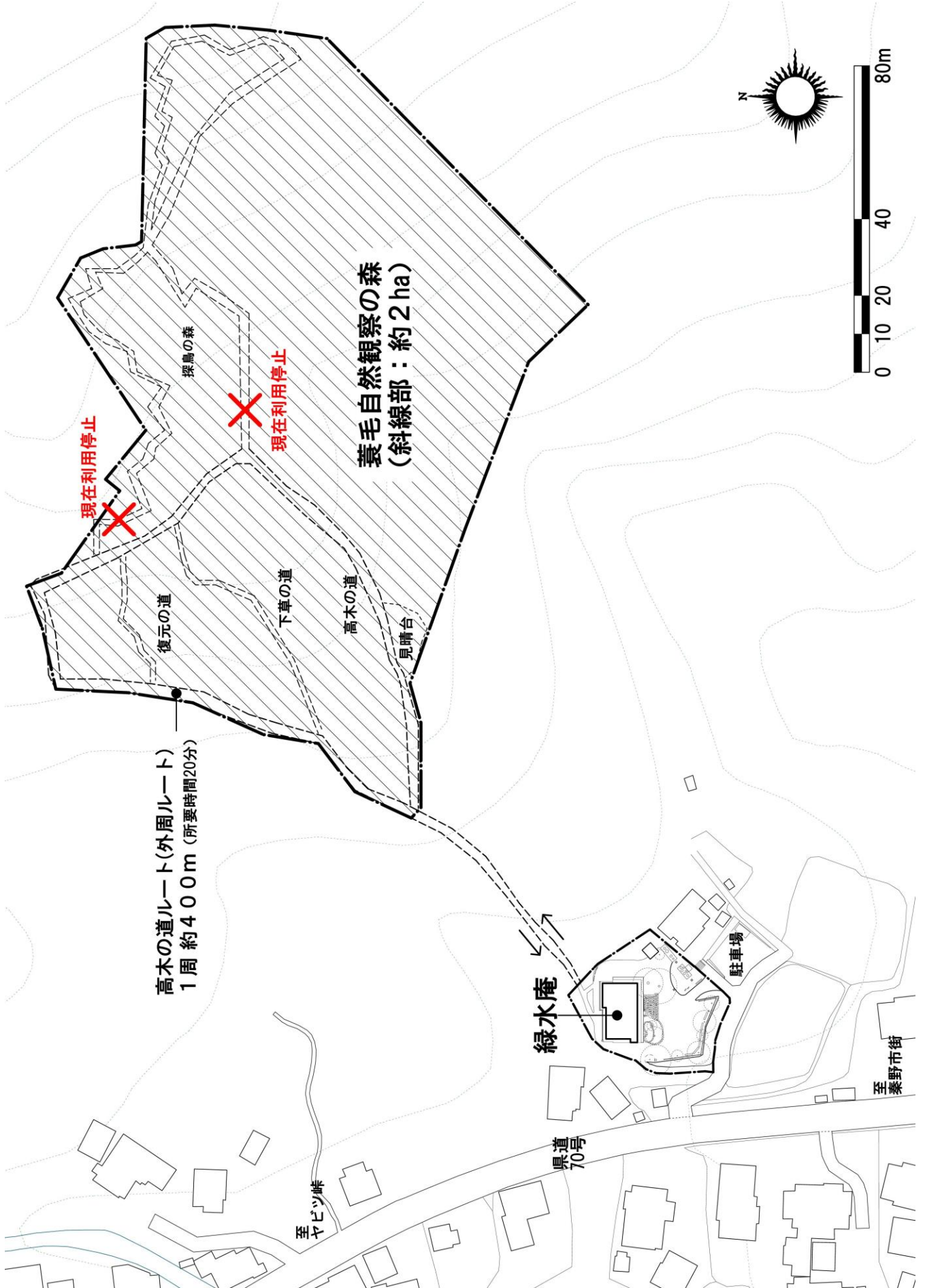
平成26年度（2014年度）まではだのエコスクール※3が、令和元年度（2019年度）まで「はだのネイチャーウォッチングクラブ」の自然観察会が行われていたが、ヤマビル被害の多発等により、現在では定期的な活動は行われていない。

※3 「はだのエコスクール」

園児や小学生等の幼少期から命の尊さや自然の大切さを学ぶため、市担当課や市民団体が環境教育の一環として実施している事業。

2 施設の概要

(蓑毛自然観察の森の概要図)



3 現在の課題

1 施設の安全性

移設後、30年以上経過しているため、外壁や土台等が痛んでいる。今後、施設を安全に使用するためには、施設の劣化状況の調査や耐震性能調査等を行い、場合に応じて修繕を行う必要がある。

2 駐車場等の改修

既存の駐車場が狭いため、イベント時には、施設から離れた場所を臨時駐車場としているが、臨時駐車場から施設までは坂道が続き、車椅子利用者や高齢者等には不便な状況が続いている。また、トイレはバリアフリーに対応していない。そのため、施設付近に駐車場を整備及びトイレのバリアフリー化をする必要がある。

3 展示館としての役割

移設当時、米葉（ベーハ）小屋などの葉たばこ栽培に付属する建物が一緒に移設されなかったため、葉たばこ農家としての全体像が伝わりにくく、来訪者は施設内部を見るだけとなっており、展示館としての役割が上手く機能していないので、改めて役割を検討する必要がある。

4 施設の利用制限

施設が「展示館」として位置付けられており、宿泊体験や飲食等の提供ができない状況であるため、施設としての方向性を検討する必要がある。

5 管理団体の構成員の高齢化や活動内容の周知

施設の管理や運営を行う団体の高齢化が進んでおり、後継者の不足が懸念される。また、団体の活動は、普段から施設を活用する地域の住民が中心で、広く知られていないため、PRをしていく必要がある。

6 蓑毛自然観察の森の整備

入り口が施設の裏側にあるため分かりにくく、散策路の老朽化やヤマビルも多数生息している。そのため、利用者が安全かつ快適に散策できる環境整備が必要である。



緑水庵



トイレ



駐車場



展示品



見晴らし台

4 活用展開の指針

緑水庵が地域活動の拠点として魅力的な施設になるために、次のとおり指針を定める。

1 地域住民が気軽に利用できる居場所や来訪者の休憩スペースとしての活用

地域住民が気軽に集まり、登山客やサイクリスト等の来訪者と交流できる環境を整備する。

2 自然に囲まれたコワーキングスペースなどの場として活用

周囲を自然に囲まれた特性を生かし、テレワークをする人に向けたコワーキングスペースとして整備する。

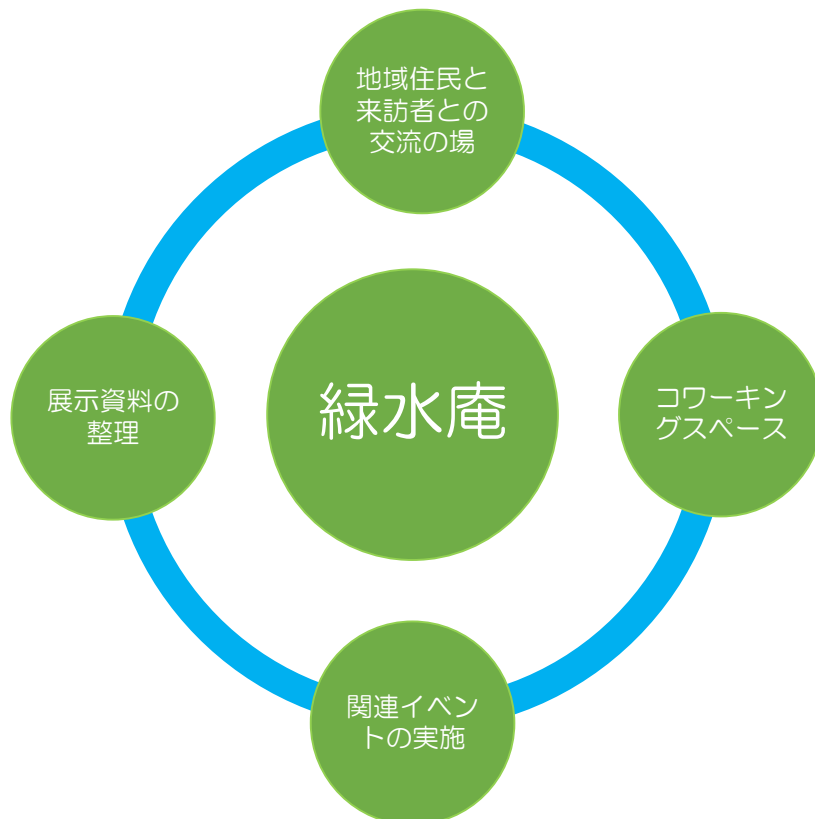
3 展示資料の整理

展示資料が保管されている土間の整理等を行い、来訪者に分かり易い展示に努める。

4 緑水庵を拠点とした関連イベントとの連携や周辺施設等を活用したイベントの実施

森林セラピーや文化財を巡るウォーキングイベントの拠点施設としての活用を図り、蓑毛自然観察の森での環境整備や緑水庵での茅葺の燻し体験などの体験型のイベントが実施できるよう努める。

(活用展開の指針のイメージ図)



5 活用展開の具体的方策

活用指針に基づいた展開を図るため、次のとおり具体的方策を定める。

1 施設の安全性の確保等の改修工事

移設後、30年以上経過しており、外壁や土台等が痛んでいるため、耐震性に問題がある。今後、施設を安全に使用するため、施設の劣化状況の調査や耐震性能調査等を行う。

2 周辺環境の整備

(1) 駐車場の整備【ハード面】

駐車スペースを確保し、使いやすい施設とするため、近隣の未使用の土地を駐車場として、整備していく。

(2) バリアフリーに対応したトイレの設置【ハード面】

新たに整備する駐車場にトイレ（バリアフリー対応）を設置し、利用者の利便性を図るとともに、表丹沢エリアの休憩拠点としての環境を整える。

(3) 蓑毛自然観察の森の整備【ハード面】

老朽化した散策路や見晴らし台の整備やウッドチップ化等を行い、利用者が快適に利用できる環境を整える。

(4) ICT環境や施設内の整備と建築基準法等の関連法案への適合【ソフト面】

ICT環境や施設内の整備等を行うとともに、建築基準法や消防法等の各種関連法案との適合を図る。

3 SNSを活用した情報発信

SNSを活用し、イベント情報等を発信、年間のイベントカレンダー等の作成を行い、活動の周知を図る。

4 管理団体の活動を継続していくための体制づくり

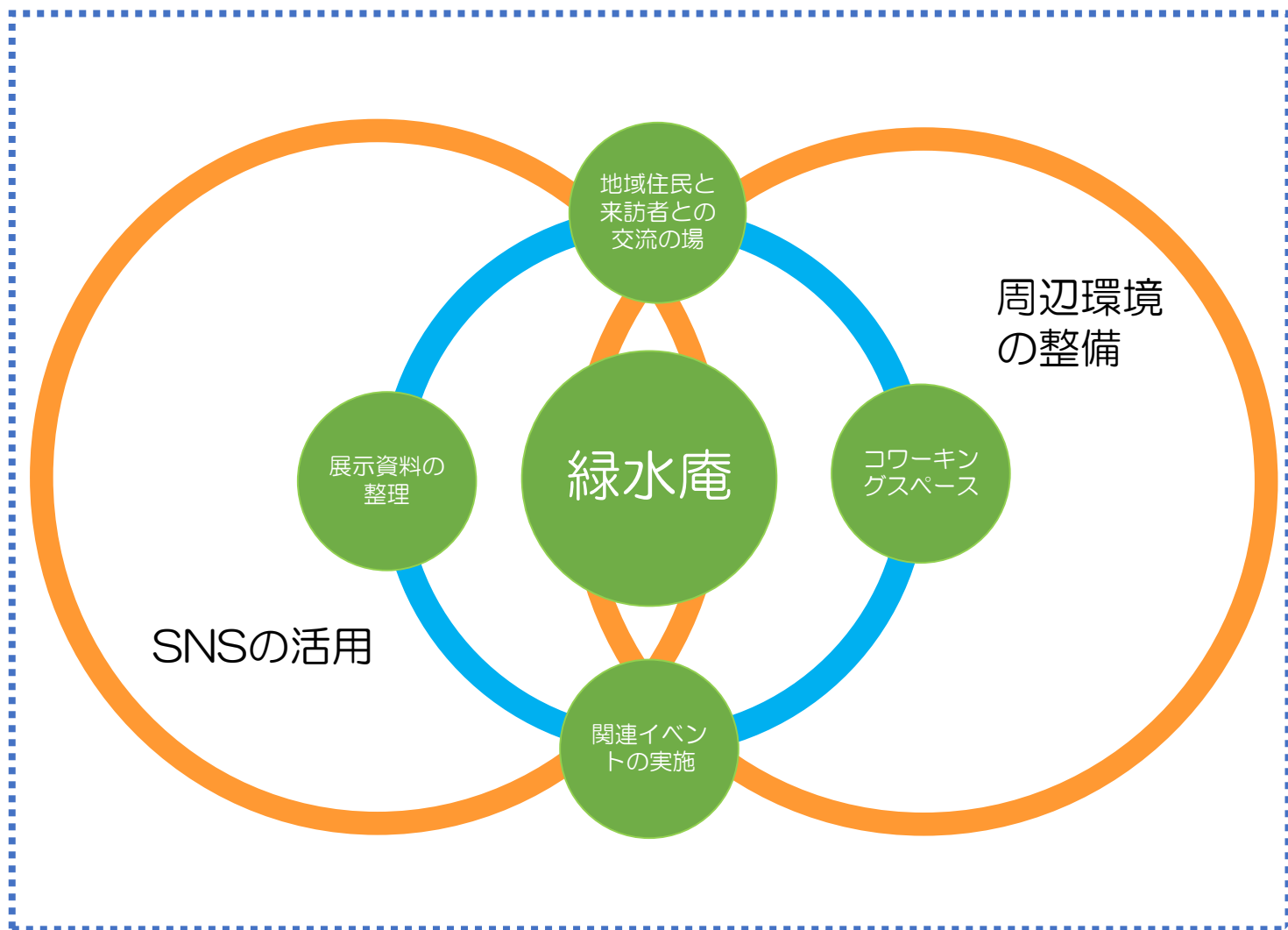
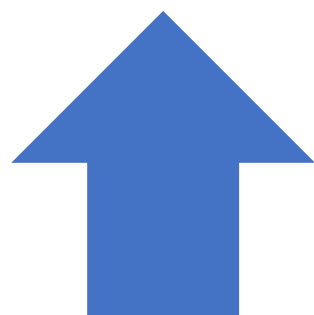
若い世代を活動に引き込み、活動を継続していくための運営方法、運営体制づくりを構築する。

5 活用展開の具体的方策

(活用展開の指針と方策のつながり)

安全性の確保

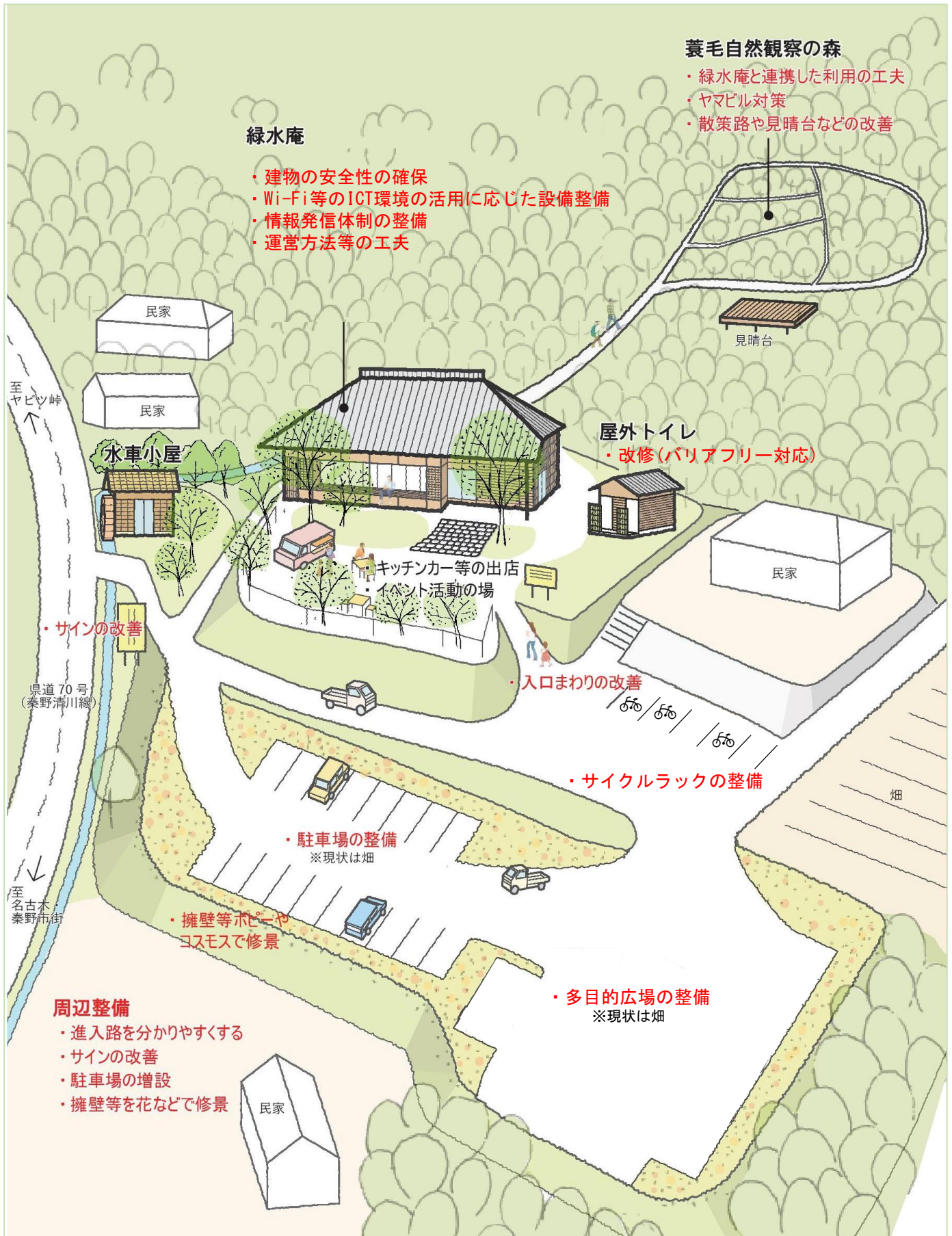
管理団体の継続性と体制づくり



5 活用展開の具体的方策

※緑水庵の活用展開イメージ

緑水庵を中心とした施設の活用展開イメージと、周辺の駐車場や蓑毛自然観察の森などを含めた整備のイメージについてまとめた。



6 今後の施設整備・改修等

緑水庵の主要用途は、展示館となっており、移築後30年以上が経過しているため、建物の耐震性に不安がある。

そのため、建物の耐震性能評価を行い、活用方法に応じた施設の整備や改修などを行っていく。

また、限りある市の財政状況を踏まえつつ、安全面や緊急性を考慮し、優先順位を付けて対応していく。

1 施設活用の具体的な検討結果

庁内や管理団体等と施設の活用方針について検討してきた結果、用途変更が生じない「展示館」のまま活用していく。

2 施設の耐震性能評価等

緑水庵が移築され、30年以上が経過しており、建物の耐震性に不安がある。

そのため、構造材などの経年劣化状況などを総合的に判断して、建物の安全性を評価する必要がある。基準を満たしていない場合は、補強などの手当てにより建物の安全性を担保することが必要であるとともに、建築基準法との適合状況調査も実施する。

3 駐車場等の周辺環境の整備

既に管理団体や地域住民などから駐車場整備についての要望があるため、「施設活用の具体的な検討」の段階から、駐車場や蓑毛自然観察の森などの、周辺施設の整備・改修を実施する。

4 施設の整備・改修

現在の用途である「展示館」として活用するため、用途変更を伴わない範囲での施設の改修や、展示物の工夫、消防法に適合するための措置^(注1)を行う。

(注1) 消防法に適合するための措置

根拠法	必要な手続き
秦野市火災予防条例	火の使用が禁止されているため、「禁煙」、「火気厳禁」等の標識を設置
消防法	誘導灯や誘導標識等の設置

6 今後の施設整備・改修等

(緑水庵・蓑毛自然観察の森の事業展開図)

年度	緑水庵	駐車場	蓑毛自然観察の森
R4	緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針作成		
	各種自主イベントの実施	土地評価鑑定(8月～)	蓑毛自然観察の森散策路整備 (11月～)
	シティプロモーション等への活用		
	展示館として、葉たばこ耕作農家の紹介	土地取得交渉(9月～)	
施設のPR			
R5	耐震・適合状況調査	土地取得交渉・取得	蓑毛自然観察の森散策路整備
	各種自主イベントの実施		
	シティプロモーション等への活用	整備設計・測量	森林整備
	展示館として、葉たばこ耕作農家の紹介		
	施設のPR		
R6	修繕設計	整備	蓑毛自然観察の森散策路整備
	各種自主イベントの充実		
	シティプロモーション等への活用		森林整備
	展示館として、葉たばこ耕作農家の紹介		
	ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画(仮称)との連携によるイベント開催		
	施設のPR		
R7	修繕工事及びトイレ改修	供用開始	蓑毛自然観察の森散策路整備
	各種自主イベントの充実		
	シティプロモーション等への活用		森林整備
	展示館として、葉たばこ耕作農家の紹介		
	ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画(仮称)との連携によるイベント開催		
	施設のPR		

緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針

秦野市環境共生課

電話番号 0463-82-9618

F A X 0463-82-6256

メールアドレス k-kyousei@city.hadano.kanagawa.jp